



20



5

くはあぢなひ

： 景 先 くら ち ち

ふしきく荷物を

北のつたさうたあ

己心くを 荷生み余



己心くを 荷生み余

保と 横着目といたものと

見え 随分 残酷ま何

物を 皆る 負せられ 四つ

の手入 一つ つけこ 未

た 一つ 懐に あると なつ

い 幸の く 歩むに くい 候

一 幸と する 鹿よ 可也

いのら 昔よ 忍はんの 扱

命を するに 治 扱 何 だ

介をうい 矢張 概介た

令園の所 壯健を祝す

國民の (キレキ) 何とか 夢

僕は知らぬ 虚みの 涉でい 解

るうこいふいと とうとた 秋

聲 出 聲 家ら 見

識い 知 此た もつて あらふ

虚子の 自分 舞 舞 である

悪に いは せ 日のは ① 度い

歌から 仙 者も 馬鹿 かく

て 其の 批評 は あり

て其の批評はあやふや

河原の翁 ~~月~~ 八人海り

四人を會して款名をと

り習い歎きあつたえか

毎日せつせつちう **竹葉**

九十九重一ころとさの石心何

とか都念してあはれ

禿ふまのばあきみこ一

市況ア上げようぢやうあこんあ

と紙みちう **失敬**

とが都念して事終一

禿ふ方のばめきみこ一

市況ア上げよつちうみこんあ

と紙みちうね失敬

十吉 彦夫

柿村河見

柿村河邊

信濃 誦訪 玉少村

久保田 復光 杯



月二十日

三浦 浦田 町
三浦 浦田 町
三浦 浦田 町
三浦 浦田 町

信濃 誦訪 玉川村

久保田 俊光 杯



八月二十日

三丁目十八番
左十八番
天

